

第2回春日山原始林授業づくりセミナー 概要報告

奈良教育大学 中澤 静男

- ◇開催日時 2019年7月3日(水) 18時30分～20時30分
- ◇会場 次世代教員養成センター1号館
- ◇参加者 吉田(附属中学校)、杉山(春日山原始林を未来へつなぐ会)
中澤敦(近畿地方ESD活動支援センター)
上田・西條(学生)、北村・中澤(奈良教育大学)

◇内容

春日山原始林の教材開発

(1) ESDの学びのパターン(アクティブ・ラーニング)

課題(よさ)の発見



仮説・調査



調査結果にもとづく話し合い



まとめ・行動化



(2) 課題やよさを見出すESDの視点(見方・考え方)

自然環境・社会環境を対象 多様性・相互性・有限性
人の営み・政策を対象 公平性・連携性・責任性

(3) 「春日山原始林の価値と保全の営み」(杉山氏)

(4) 春日山原始林のよさあるいは課題を見つける

・巨樹・古木の倒木 — 最近の巨大化した台風の影響 —

温暖化

— ナラ枯れ

— カシノナガキクイムシの大量発生
大木化したクヌギ・コナラに発生

再生可能エネルギーから再生不可
能エネルギーへ

(かつての薪炭林) 燃料革命により伐採されなくなり、大木化)

— キクイムシの大量発生減に(近くでは若草山山頂あたりのクヌギ・
コナラでの大量発生が最初(今は、ナンキンハゼに置き換わっている)



・自然更新できていない — 増えすぎたシカ — 樹皮の食害による枯死

幼木の食害(シカの食べない樹種だけの山)

下草の食害(土が表面に—土壤流出)

○シカと森と人の共生は可能か?

人間活動の影響が及んでいない自然環境はどこにもない

春日山原始林も大きなビオトープと考えることができる←人の手が入ることで豊かになる自然
頭数制限には難色を示す委員会

柵の設置はOK

連携性の課題

シカのことだけを話し合う委員会と原始林のことだけを話し合う委員会



柵を春日山原始林の数カ所に設置し、樹木の生長にあわせて移動させることで、管理地をパッチワーク状に配置する（かつての焼き畑のように）

環境と経済の課題

事業の継続には資金が必要（助成金だけでなく）

江戸時代に春日山周辺に築かれた鹿垣に学ぶ

春日山原始林内の土を用いた土堀

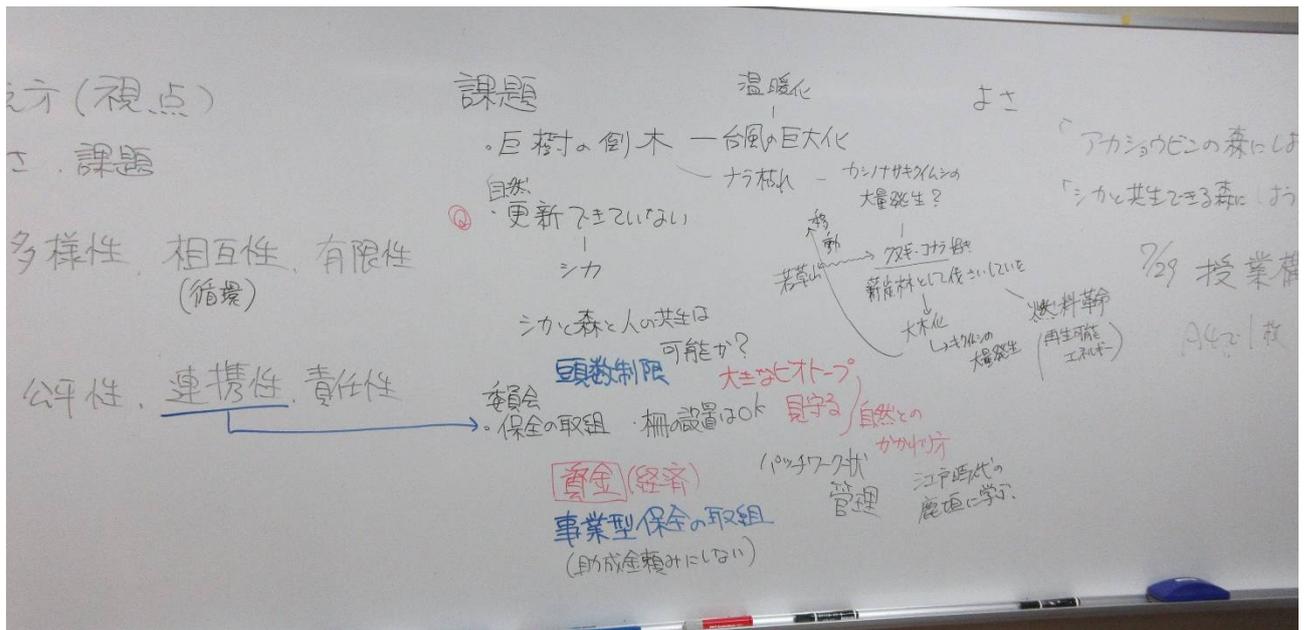
よさ：環境と文化の接合

○シンボルとなる生き物を用いた目的を明確とした取組・意欲化

小学生でも取り組める

「アカショウビンが住める森にしよう」

「シカと共生できる森にしよう」



次回、7月29日は授業構想の検討会です。

A4で1枚もの（目標と簡単な単元展開を記載）を作ってくる。